

畜産・酪農用語集

○あ行

用語	説明
アニマルウェルフェア	家畜を快適な環境下で飼育することにより、家畜のストレスや疾病を減らす取組。国際獣疫事務局(WOAH)では、「動物が生きて死ぬ状態に関連した動物の身体的及び心的状態」と定義。
アフリカ ^{ぶたねつ} 豚熱	豚、イノシシの伝染病。国内未発生。2007年以降、欧州、アジア地域等で継続的に発生を確認。有効な治療法やワクチンはない。ヒトへは感染しない。家畜伝染病予防法に基づき、感染した家畜を発見次第、直ちに通報することや殺処分すること等を義務付け。
イアコーンサイレージ	とうもろこしの ^{しすい} 雌穂(イアコーン)の一部あるいは全部を収穫し、密封・貯蔵し、乳酸発酵させたもの。なお、 ^{しすい} 雌穂とは芯、子実とこれを包む皮をいう。
イタリアンライグラス	イネ科の寒地型単年生牧草。耐湿性が比較的強いことなどから、水田裏作での栽培にも適する。

<p>一塩基多型 (SNP) 遺伝子解析技術</p>	<p>DNAの塩基配列における一つの塩基の違いが、乳量等の個体能力の差を生じさせることがあり、これを「一塩基多型 (SNP (Single Nucleotide Polymorphism の略))」と呼ぶ。その関係を明らかにすることで、家畜改良に役立てる技術。</p>
<p>えきひか 液肥化</p>	<p>流動性の高いふん尿混合物(スラリー)や尿等の液状の有機質を、微生物による分解(「発酵」とも呼ばれる。)等により、液状の肥料として利用できるように変換すること。家畜のふん尿の場合は、液肥化の過程で臭気の軽減が期待できる効果もある。</p>
<p>エコフィード</p>	<p>食品製造副産物等を活用した飼料。環境にやさしい(ecological)や節約する(economical)等を意味するエコ(eco)と飼料を意味するフィード(feed)を併せた造語。</p>
<p>エコフィード認証 制度</p>	<p>エコフィードの品質確保及び食品リサイクルへの関心と理解を深めることを目的に、一定の基準(食品製造副産物等の利用率、栄養成分の把握等)を満たす飼料を「エコフィード」として認証する制度。</p> <p>(認証機関：(一社) 日本科学飼料協会)</p>

<p>エコフィード利用 畜産物認証制度</p>	<p>エコフィードを利用する取組を消費者までつなげることで、取組に対する社会の認識と理解を深めることを目的に、一定の基準（給与計画に基づくエコフィードの給与、販売までのルート特定等）を満たす畜産物を「エコフィード利用畜産物」として認証する制度。（認証機関：（公社）中央畜産会）</p>
<p>枝肉</p>	<p>牛、豚をと畜し、放血して頭部、尾、四肢の先端等を切り取り、皮や内臓を取り除いたもの。</p>
<p>部分肉</p>	<p>枝肉を、カタ、バラ、モモ等の各部位に分割し、骨や余計な脂肪等を取り除いた、肉のかたまり。</p>
<p>精肉</p>	<p>部分肉をスライス、カットするなどした状態の肉。（一般に、消費者が購入する状態の肉）。</p>
<p>オートソーティングシステム</p>	<p>豚が餌を食べるために休憩スペースから給餌スペースに移動する際、計量器の上を通過させることで体重を自動的に測定し、成長度合いに応じて畜舎を移動すべき豚や出荷体重に達した豚を仕分ける方法。人が一頭ずつ測定しなくてすむため、省力化につながる。</p>

<p>オールイン・オールアウト</p>	<p>新たな豚群を一度に導入（イン）して一定期間飼養し、一度に出荷（アウト）する方式。豚群の出荷の度に豚の収容施設を空にして、収容施設の水洗・消毒・乾燥を徹底することで病原体が減少し、豚群の健康維持、事故率低減及び生産性向上を図ることが可能となる。</p>
---------------------	--

○か行

<p>かくづけ 格付</p>	<p>（公社）日本食肉格付協会が定める等級のこと。牛枝肉については、歩留まり（A～C）及び肉質（5～1）により15段階に、豚枝肉については、重量、外観、肉質等により「極上」、「上」、「中」、「並」、「等外」の5段階に分類される。</p> <p>※歩留まり：生体から、皮や内臓などを取り除いた枝肉の割合。</p>
<p>かこうげんりょうにゅう 加工原料乳</p>	<p>脱脂粉乳・バター等、チーズ、液状乳製品等に仕向けられる生乳。乳製品は輸入品と競合することから、飲用向け（牛乳や成分調整乳等）に比べ乳価が低い。</p>
<p>加工原料乳生産者 補給金</p>	<p>加工原料乳に対し支払われる補給金のこと。補給金と集送乳調整金からなる。</p>

<p>かちくかいりょう 家畜改良</p> <p>ぞうしょくもくひょう 増殖目標</p>	<p>家畜改良増殖法に基づき、家畜の能力（乳用牛の泌乳量、肉用牛の繁殖能力等）、体型、頭数について、10年後（2035年）の目標を定めたもの。（対象は、乳用牛、肉用牛、豚、馬、めん山羊）</p>
<p>家畜の排せつ物の利用の促進を図るための基本方針</p>	<p>家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律に基づき、家畜排せつ物の利用の促進のため、処理高度化施設の整備等の方向を示したものの。</p>
<p>かんきょうふか 環境負荷</p>	<p>人の活動により、環境に加えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。農業分野では、肥料・農薬の過剰な投入や家畜排せつ物の不適切な管理、家畜の消化管内発酵由来のメタンガス等の温室効果ガスの排出等が環境負荷の主な発生要因となっている。</p>
<p>ぎゅうぐんけんてい 牛群検定</p>	<p>農家が飼養している乳用牛の状況を客観的に数字で把握し、飼養管理改善や牛群改良に役立てるシステムのこと。具体的には、乳量、乳成分、体細胞数等のデータを個体毎に記録し、これらを集計・分析することにより、能力の高い雌牛の選抜を推進するもの。農家の牛群は乳用牛改良の基盤であり、収集されたデータは「検定成績表」として農家にフィードバックされ、能力に応じた雌牛の選抜的利用、飼料給与の改善、搾乳衛生管理、繁殖管理、遺伝的改良といった経営改善に役立っている。</p>

<small>きょうようきかん</small> 供用期間 【乳用牛】	<p>乳用牛が生乳を生産している期間のこと。</p>
組換えDNA技術 応用飼料	<p>遺伝子組換え技術を利用して作られた飼料のこと。組換えDNA技術応用飼料は農業資材審議会及び食品安全委員会にそれぞれ意見を聴き、安全性の確認、評価が行われたもののみ利用可能。</p>
経口ワクチン	<p>注射ではなく、食べさせることで接種するワクチン。野生イノシシの豚熱(p.19 参照)対策として、散布を実施。</p>
<small>けんきせいはいっこう</small> 嫌気性発酵	<p>酸素の介在を伴わない状態で活発に活動する微生物に有機物を分解させる方法。(例：メタン発酵)</p>
<small>こうきせいはいっこう</small> 好気性発酵	<p>酸素が介在する状態で活発に活動する微生物に有機物を分解させる方法。攪拌装置等を用いて強制的に酸素を供給し、堆肥を生産することを強制好気性発酵という。</p>
公共牧場	<p>地方公共団体、農業協同組合、<small>ぼくやくみあい</small> 牧野組合等の団体が、農家の乳用牛又は肉用牛を預かり、放牧利用を中心とした集団的な飼養管理を行う牧場。</p>

<p>耕畜連携</p>	<p>耕種農家の生産した国産飼料を畜産農家が利用し、家畜排せつ物に由来する堆肥を農地に還元する取組。</p>
<p>こうていえき 口蹄疫</p>	<p>牛、豚などの偶蹄類の伝染病で、極めて感染力が強い。日本では2010年に10年ぶりに発生したが、翌年清浄国に復帰。アジア地域等では継続的に発生。口やひづめに水ぶくれなどの症状を示し、成長した家畜の死亡率は低い、産業動物としての生産性は大きく低下する。家畜伝染病予防法に基づき、感染した家畜を発見次第、直ちに通報することや殺処分すること等を義務付け。</p>
<p>コンソーシアム (事業共同体)</p>	<p>共通の目的を達成するために集まった、2者以上の生産者、企業、団体等で構成される集団。</p>
<p>コントラクター (飼料生産受託組織)</p>	<p>畜産農家等から、飼料作物の収穫作業等の農作業を受託する組織。</p>
<p>こんばん 混播</p>	<p>複数の作物の種子を混合して播種すること。イネ科牧草とマメ科牧草を混ぜて播種することが良く行われる。混ぜ播き。</p>

○さ行

<p>採草放牧地</p>	<p>農地法第2条第1項で定義されており、農地以外の土地で、主として耕作又は養畜の事業のための採草又は家畜の放牧の目的に供され、耕作又は養畜の行為が反復継続的に行われるもの。</p>
<p>細断型ロールベラー</p>	<p>飼料作物を細断しながら収穫し、ロール状に成形する機械。高密度梱包が可能であり、収穫からロールの生成まで一体的に行えることから、高品質なロールサイレージを省力的に生産することができる。</p>
<p>サイレージ</p>	<p>牧草、青刈りとうもろこしや飼料用稲等をラップなどを用いて空気と遮断し乳酸発酵させて作る飼料。</p>
<p>さくにゅう 搾乳ロボット</p>	<p>人に代わり自動的に搾乳する機械。具体的には、飼料により牛を一定のエリアに誘導し、牛がエリア内に入ると乳頭をセンサーで検出し、搾乳のためのカップを装着して搾乳する。</p>
<p>さくにゅう 搾乳ユニット自動搬送装置</p>	<p>繋ぎ飼い牛舎内で頭上に設置されたレールを用い、搾乳ユニットを乳牛の近くまで自動的に搬送する装置。これにより、搾乳ユニットを持ち運ぶ労働が軽減される。</p>

産業動物獣医師	牛や豚等の家畜の診療等に携わる獣医師や、家畜の伝染病のまん延防止等に携わる農林水産分野の公務員獣医師のこと。
産地食肉センター	牛・豚等の飼養地域に設置される、牛・豚等のと畜、部分肉処理を一貫して行う食肉処理施設。
指定生乳生産者団体（指定団体）	生乳を集めて乳業メーカーに販売する生産者団体であって、条件不利地域も含めて集乳する事業者として農林水産大臣の指定を受けた団体。全国に 10 団体存在。
じつようけい 実用鶏	鶏肉生産あるいは食用卵採取のため、一般農家で飼養される ^{とり} 鶏。
しゅうそうにゅう 集送乳	酪農家が生産した生乳をミルクタンクローリーにより集め（集乳）、その集めた生乳を乳業工場に輸送（送乳）すること。
集送乳調整金	条件不利地域の集送乳を安定的かつ確実に行う事業者に対して交付される補助金。
集約放牧	短期輪換放牧により短草状態の牧草を安定的に放牧牛に供給し、草地と家畜の生産性を高める放牧方法。

<p>しゅけい 種 鶏</p>	<p>じつようけい 実 用 鶏 を生産するための親鶏。我が国はその多くを EU や北米に拠点を置くグローバル企業からの供給に依存している。</p>
<p>しゅとん 種 豚</p>	<p>肥育して食用に供される豚（肉 豚^{にくとん}）を生産するための親豚。</p>
<p>受精卵移植技術</p>	<p>優れた能力を持つ家畜から作出した受精卵を、他の家畜の子宮内に移植して優れた家畜を効率的に生産する技術。例えば、乳用牛に和牛受精卵を移植することにより、和子牛を生産することができる。</p>
<p>生涯生産性</p>	<p>単なる乳量だけでなく、乳牛の供用年数等の経済性も考慮した生涯における生産性のこと。</p>
<p>消化管内発酵</p>	<p>牛や羊等の反 芻^{はんすう}動物がルーメン（第一胃）内の微生物を利用し牧草等の植物性飼料を分解・消化する仕組み。分解の過程でメタンガスが生成され、げっぷとして排出される。</p>
<p>しょうにく 正 肉</p>	<p>枝肉を分割し、骨および余分な脂肪を外した状態。</p>

飼料生産組織	飼料作物の収穫作業等の農作業を受託するコントラクターや、飼料を生産・販売する組織、TMRを製造し畜産農家へ供給する TMR センターのこと。
飼料添加物	飼料の品質低下の防止や栄養成分その他の有効成分の補給、飼料が含有している栄養成分の有効な利用の促進の目的で飼料に添加・混和等の方法によって用いられるビタミン・抗菌性物質等の総称。「飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律」に基づき、農林水産大臣に指定され、基準・規格を満たしたものののみ利用可能。
飼料用稲	飼料として利用される稲のこと。稲発酵粗飼料(稲 WCS)、飼料用米。ただし、稲わらは含まない。
稲発酵粗飼料 (稲WCS)	出穂後、実が完熟する前に地上部(実及び茎葉)を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料。稲ホールクロップサイレージ(稲 WCS)とも呼ばれる。
飼料用米	飼料として利用される米。茎葉は利用せず玄米又は粳米の形で家畜に給与される。
飼料用とうもろこし	主にデントコーン種を用い、完熟前に収穫する青刈りとうもろこしや、完熟後の子実を用いる子実とうもろこし等がある。

	<p>青刈りとうもろこし</p>	<p>出穂後、実が完熟する前に地上部（実及び茎葉）を一体的に収穫する飼料用とうもろこし。大部分が乳酸発酵させたホールクロップサイレージ（WCS）の形で牛に給与される。</p>
	<p>しじつ子実用とうもろこし</p>	<p>家畜の飼料として利用されるととうもろこしの実（しじつ子実）及びイアコーン（しじつ子実だけでなく芯及び外皮を含めたとうもろこし）。</p>
<p>ソルガム類（ソルゴー・スーダングラス）</p>		<p>イネ科の飼料作物で、通常単年利用される。温暖地から暖地を中心に栽培されている。多様な種類があり、再生力が強いものや、台風の常襲地帯でも栽培が可能なものもある。一般的に収量性、耐旱性が高い。ソルガム類には、ソルガム、スーダングラス、ソルゴー型ソルガムなどがある。</p>
<p>スタンション</p>		<p>牛の首を固定しておく装置。主に繋ぎ飼い牛舎で使用されるが、放し飼い方式牛舎の給餌柵などにも使用されている。</p>
<p>連動スタンション</p>		<p>連続したスタンションの開閉を一元的に同時に行うことが出来るシステム。</p>

スマート農業	<p>ロボット、^{エーアイ} AI、^{アイオーティー} IoT等の先端技術を活用する農業。ドローンやロボット農機、データの活用による省力化や品質、生産性の向上が期待される。</p>
スラリー	<p>家畜のふん尿混合物。微生物による分解等により、液状の肥料として利用。</p>
せいにく 精肉	<p>部分肉をスライス、カットするなどした状態の肉。（一般に、消費者が購入する状態の肉）。</p>
性選別精液	<p>DNA量のわずかな違いを識別するフローサイトメーター（自動細胞識別装置）を用いて、精子をX精子（^{しせいし}雌精子）又はY精子（^{ゆうせいし}雄精子）に分別した精液。</p>
早期出荷	<p>肥育を早期に開始することや肥育期間を短縮することにより、出荷月齢を早期化すること。飼養期間が短縮できるため、生産コストの低減や回転効率の上昇により収益性の確保が期待できる。</p>
総交付対象数量	<p>加工原料乳生産者補給金制度において、補給金等を交付する乳量の上限数量（限度数量）のこと。</p>

総合乳価	酪農家が販売した生乳 1 kg 当たりに対し受け取る手取り乳価。プール乳価(p.19 参照)から販売手数料が控除され、補給金等が上乗せされた価格。
粗飼料	重量に比べ、植物繊維が多く含まれ、。可消化栄養成分が少ない飼料。牧草、青刈りとうもろこし等の茎葉も利用するもの、稲わら等。

○た行

たいさいぼう 体細胞	乳牛の血液中の白血球や上皮細胞が生乳中に混入したもの。産次を経るほど生乳中の体細胞数は多くなる。また、乳房炎に罹っている乳牛も一般的に体細胞数（白血球）が多くなるため、乳質向上等を図るための指標として活用されている。
堆肥化	有機物を含む材料を、酸素が十分にある条件下で微生物の作用により分解（「発酵」とも呼ばれる。）し、土壌改良資材や肥料に変換すること。家畜の排せつ物を堆肥化する場合は、水分含量の調整と通気性の確保が必要となるため、もみがらやおがくずなどの副資材を混合して、適宜攪拌を行うことが重要。

<p>畜産クラスター事業</p>	<p>畜産・酪農の収益性・持続性向上に必要な施設・機械の導入を支援する事業。「クラスター」とは「ぶどうの房」の意であり、畜産農家と地域の畜産関係者（コントラクター等の支援組織、流通加工業者、農業団体、行政等）が一体的に集結する様を表したものの。</p>
<p>チモシー</p>	<p>イネ科の寒地型多年生牧草。耐寒性が強く永続性、嗜好性及び栄養価に優れる。北海道における栽培が多く、採草、放牧兼用種として利用される。高温・乾燥条件に弱いことから、冷涼地帯以外ではあまり作付けされない。</p>
<p>長命連産性</p>	<p>より多くの子牛を産み、より長い期間にわたって生乳生産すること。</p>
<p>つな 繋ぎ ぎゅうしゃ 牛舎 か 飼 い しき 式</p>	<p>ロープやチェーンなどで繋留^{けいりゅう}するタイストール、牛体頸部をスタンション(p.12 参照)により緩やかに挟んで繋留するスタンションストールなどがある。※ストール＝牛床</p>
<p>てんしきよか 転飼許可</p>	<p>養蜂振興法に基づき、養蜂業者は蜂蜜等の採取又は越冬のため、蜜蜂を他の都道府県内の区域に移動して飼育する際に、転飼先を管轄する都道府県知事から得ることが必要となる許可。</p>

<p>鳥インフルエンザ</p>	<p>鳥の伝染病。「高病原性鳥インフルエンザ」及び「低病原性鳥インフルエンザ」は家畜伝染病予防法に基づき、感染した家畜を発見次第、直ちに通報することや殺処分すること等を義務付け。日本では渡り鳥が飛来する冬季を中心に発生。</p> <p>我が国の現状において、家きん肉や家きん卵を食べることにより、ヒトに感染することはないと考えられている。</p>
-----------------	---

○な行

<p>乳和食</p>	<p>味噌や醤油などの伝統的調味料に、「コク味」や「旨味」を有している牛乳を組み合わせることで、利用されている食材本来の風味や特徴を損なわずに食塩やだしを減らし、美味しく和食を食べてもらう調理法。</p>
<p>ヌレ子</p>	<p>生後間もない子牛を指す言葉であり、特に乳用種の雄子牛に用いられることが多い（家畜市場で取引される乳用種の雄「ヌレ子」は、平均 21 日齢）。</p>
<p>濃厚飼料</p>	<p>重量に比べ植物繊維が少なく、デンプン等の非繊維性の炭水化物やタンパク質などの可消化栄養成分が多い飼料。とうもろこしや麦等の子実部分を利用するもの、大豆油搾りかす、ぬか・ふすま等。</p>

<p>農場トレーサビリティ</p>	<p>農場で、トレーサビリティ情報を含む各種の情報を記録・保存し、開示できるようにするため、生産者団体が推進している取組。現在、実用化に向け実証等を行っているところであり、具体的には、生産者の農場に番号を付番し、出荷から小売りまで農場番号を伝達し、農場段階でのトレーサビリティの確立を図ることとしている。</p>
<p>ハサップ 農場HACCP</p>	<p>畜産農場における衛生管理を向上させるため、農場に HACCP（危害要因分析必須管理点）の考え方を採り入れ、危害要因（微生物、化学物質、注射針等異物の残留など）を防止するための管理ポイントを設定し、継続的に監視・記録を行うことにより、農場段階で危害要因をコントロールする手法。</p>

○は行

<p>バイオマス</p>	<p>再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたもの。例えば、家畜排せつ物や食品廃棄物はこれに含まれる。</p>
<p>配合飼料</p>	<p>家畜種とその成長ステージに応じた栄養素の要求量を満たすように、とうもろこし、大豆油かす等を混合した飼料。牛については、これ以外に粗飼料を給与する。</p>

<p>配合飼料価格安定制度</p>	<p>配合飼料価格の上昇が畜産経営に及ぼす影響を緩和するための制度。</p> <p>① 民間（生産者と配合飼料メーカー）の積立てによる「通常補填」と、</p> <p>② 異常な価格高騰時に通常補填を補完する「異常補填」（国と配合飼料メーカーが積立て）の二段階の仕組みにより、生産者に対して、補填を実施。</p>
<p>パイプライン</p>	<p>搾乳機（ミルクカー）により搾った生乳を牛舎や搾乳室に配管されたパイプを通じて冷却装置（バルククーラー）に送り、冷却・貯蔵する方式。この配管そのものを指す場合もある。</p>
<p>バタリーケージ</p>	<p>我が国における採卵鶏農家で多く採用されている飼養方式で、鶏を排せつ物が溜まる床から離し、給餌器及び給水器を備えた金属製のカゴ。</p>
<p>バンカーサイロ</p>	<p>3面だけ壁があるサイロ。底面と側壁との間に収穫した飼料作物を詰め込んだ後にビニールシートで密封してサイレージの調製及び貯蔵を行う。トラクターやホイールローダを用いて、詰込み、踏圧、取出しを省力的に行えることから大容量の大型サイロとして利用されている。</p>
<p>泌乳持続性</p>	<p>乳量の変化が小さく、泌乳ピーク時の乳量を持続する能力。</p>

<p>プール乳価</p>	<p>生産者から生乳を集めて乳業メーカーへ販売する事業者に対して、乳業メーカーから事業者に支払われる生乳 1 kg 当たりの価格（≠総合乳価）。</p>
<p>ぶたねつ 豚熱</p>	<p>豚、イノシシの伝染病。日本国内では、平成 30 年に 26 年ぶりに発生し、令和 2 年 9 月に清浄国ステータスを消失。野生イノシシへの感染も確認。発生予防には、有効なワクチンがあるが飼養衛生管理基準の徹底が重要である。ヒトへは感染しない。家畜伝染病予防法に基づき、感染した家畜を発見次第、直ちに通報することや殺処分すること等を義務付け。</p>
<p>部分肉</p>	<p>枝肉を、カタ、バラ、モモ等の各部位に分割し、骨や余計な脂肪等を取り除いた、肉のかたまり。</p>
<p>フリーストール</p>	<p>放し飼い式牛舎で、列状に配置した^{ぎゅうしょう}牛床（ストール）に牛が自由に横たわることができる方式をいう。</p>
<p>フリーバーン（ルー ズバーン）</p>	<p>放し飼い式牛舎で、全面に敷料をおき、どこでも牛が横たわることができる方式をいう。</p>

<p>分離給与</p>	<p>粗飼料と濃厚飼料等を別々に給与する方式のこと。一方、粗飼料と濃厚飼料等を混合して給与する方式にTMR等の方式がある。</p> <p>⇒TMRについては、P.27 参照</p> <p>分離給与は古くから行われており、設備投資を必要とせず、緻密な給餌方法をとれば、個体別管理ができるなどの利点がある一方、選び食いを助長し、給餌作業時間が長くとられるなどの短所がある。</p>
<p>ヘルパー</p>	<p>農家が休日を確保する場合や突発事故が発生した場合等において農家に代わり飼養管理等を行う者。</p> <p>⇒酪農ヘルパーについては、P.23 参照</p>
<p>ペレット化</p>	<p>物質を粒状に成形すること。堆肥ではペレット化することにより、保管性が向上し、広域流通や、散布が容易となる等のメリットがある。</p>
<p>放牧畜産基準認証制度</p>	<p>放牧畜産の展開を一層促進するとともに消費者の理解を得るため、(一社)日本草地畜産種子協会が実施している放牧に関する認証制度。1頭当たりの放牧面積などの基準(放牧畜産基準)を設けている。</p>
<p>ホエイ</p>	<p>チーズを生産する際に副次的に生成される乳製品。育児用粉ミルクやプロテイン等の原料。</p>

ほ乳(育)ロボット	子牛へ自動的に代用乳を与える装置。省力化だけでなく、子牛個体ごとにはほ乳量やほ乳回数を自由にコントロールできる。
-----------	--

○ま行

マルキン	肥育牛と肉豚の経営安定対策。販売価格が生産費を下回った場合、差額の9割を補填。「マルキン」の名は、かつて、「緊急」対策であったことに由来。
マルチサイト	豚の生産を、種付け・妊娠・分娩期、離乳子豚期や肥育期などのステージごとに異なる場所（サイト）に分散して飼養する方式。日齢の大きい豚から若い豚への感染連鎖のリスクを低減させることができる。
みつげんしよくぶつ 蜜源植物	蜜蜂が蜂蜜を作るために花から蜜を集める植物。国内ではレンゲ、アカシア、ミカン等が主要な蜜源植物となる。
ミルクパーラー	放し飼い方式で飼養される乳牛を搾乳するための部屋のこと。牛をパーラーに移動させて搾乳を行うため、省力化の効果が大きい。

アブレストパーラー	<p>牛を横に並べて搾乳する設備で、搾乳者が入るスペースは牛2頭ごとに配置される。繋ぎ飼い式牛舎を改造して、低コストでつくることができるのが特徴。</p>
パラレルパーラー	<p>牛を横に並べて、搾乳作業者は牛の後肢の股間からユニットを装着して搾乳する設備。牛と牛の間隔が狭く、搾乳作業者の移動距離が非常に短いのが特徴。</p>
タンデムパーラー	<p>牛を縦に並べて搾乳する設備。搾乳の終わった牛を出して、そのストールに次の牛を入れることができるので、常にストールを利用することができるのが特徴。</p>
ヘリンボーンパーラー	<p>牛を斜めに並べて搾乳する設備。構造が簡単で、所要面積も比較的少ないのが特徴。</p>
ロータリーパーラー	<p>牛を乗せた円盤を回転させ、1回転する間に搾乳する設備。搾乳作業者は移動することなく、牛にユニットを装着することができるのが特徴。設備が大型で、建設費が高い。</p>

○や行

用途別取引	飲用向け生乳、チーズ向け生乳など、生乳の用途ごとに価格を分けて取引すること。
養豚農業の振興に関する基本方針	養豚農業振興法（平成 26 年法律第 101 号）に基づき、養豚農業の健全な発展に向けた取組や施策の方向を示すもの。

○ら行

酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針 <small>らくにくきん</small> (酪肉近)	酪農及び肉用牛生産の振興に関する法律(昭和 29 年法律第 182 号)に基づき、酪農・肉用牛生産の健全な発展と牛乳・乳製品、牛肉の安定供給に向けた取組や施策の方向を示すもの。
酪農教育ファーム	子供達を中心に牧場へ受け入れ等を行い、実際に牛に触れたり、搾乳や牛の世話などの酪農体験を通じて、食といのちの学びを支援する牧場。
酪農ヘルパー	酪農家の要望に応じて、搾乳や給餌などの作業を代行する者。朝夕 2 回の搾乳作業が欠かせない酪農家の休日確保や、病気やけがで作業できないときに対応。

ラッピングマシン	収穫後、ロール状に成形した飼料作物を乳酸発酵、乾燥状態維持のためにフィルムで密封する機械。
リキッドフィーディング	飼料（エコフィードを含む）を水と混合して、スープ状に加工して家畜に給餌する方法。 乾燥飼料と比べて飼料が飛散しにくいため畜舎内の粉塵が少ない、パイプライン等の給与機械の整備が必要といった特徴がある。
レンダリング	家畜の食用に用いられない副産物から、熱処理によって油脂及び肉骨粉を生産すること。
ロールサイレージ	収穫後、ロール状に成形した飼料作物をフィルムで密封し乳酸発酵させた飼料。

○わ行

ワンヘルス・アプローチ	ヒトと動物、それを取り巻く環境（生態系）は、相互につながっていると包括的に捉え、ヒトと動物の健康と環境の保全を担う関係者が緊密な協力関係を構築し、分野横断的な課題の解決のために活動していこうという考え方。 人獣共通感染症対策や薬剤耐性菌対策などでワンヘルス・アプローチが必要。
-------------	---

○アルファベット

<p>エーエムアール A M R</p>	<p>Antimicrobial Resistance の略で、「薬剤耐性」と訳されている。抗菌剤（抗生物質）の不適切な使用等によって薬剤が効かない細菌が生じることをいう。</p>
<p>ビーエムエス B M S</p>	<p>Beef Marbling Standard（牛肉脂肪交雑基準）の略。牛肉の赤身にどれだけサシ（脂肪交雑）が入っているかを示す指標。12 段階で判定され、No.12 が最もサシが多い。</p>
<p>ビーエスイー B S E</p>	<p>Bovine Spongiform Encephalopathy（牛海綿状脳症）の略。異常プリオンたんぱく質に汚染された飼料の摂取により経口感染すると考えられている牛の疾病。長い潜伏期間の後、脳組織に空胞性の変性が生じ（スポンジ状）神経症状を起し、死に至る。</p> <p>世界での発生のピークは1992年で、対策の進展により、発生頭数は大きく減少。日本では2002年生まれの牛を最後に発生はなく、2013年に国際獣疫事務局（現WOAH）から「無視できるBSEリスク」の国に認定。</p>

<p>シービーエス CBS (CS)</p>	<p>Cattle Breeding Station の略。繁殖経営で多くの時間を費やす、繁殖雌牛の分娩・種付けや子牛のほ育・育成を集約的に行う組織。なお、CS (キャトルステーション) は、繁殖経営で生産された子牛のほ育・育成を集約的に行う組織であり、繁殖雌牛の預託を行う場合もある。</p>
<p>シーエス CS</p>	<p>Cooler Station (クーラーステーション) の略。酪農家で生産された生乳を乳業工場まで輸送する際、大量流通や配送先の変更等に対応するため、生乳を冷却し、一時的に貯乳する施設。</p>
<p>ディーエヌエー DNA解析技術</p>	<p>遺伝的能力や遺伝病の発生を事前に把握するため、優良な形質や遺伝病に関連するDNA (遺伝子) を特定する技術。現在、優良形質については、黒毛和種の脂肪交雑、枝肉重量に関連するDNA が特定されつつあり、機能解析から特許に結びついた事例も出ている。また、遺伝病については、原因となるDNA (遺伝子) の特定により、牛で 11 種、豚で 1 種の遺伝病診断法が確立されている。</p>
<p>ギャップ GAP</p>	<p>Good Agricultural Practices の略で、畜産においては、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、アニマルウェルフェア等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組。</p>

<p>ビーイーディー P E D</p>	<p>Porcine Epidemic Diarrhea（豚流行性下痢）の略。本病は食欲不振と水様性下痢を主な症状とするウイルスによる豚の伝染病である。特に若齢豚で症状が重くなりやすく、哺乳豚は高致死率。有効なワクチンが存在する。</p>
<p>ビーエムエス P M S</p>	<p>Pork Marbling Standard（豚肉脂肪交雑基準）の略。豚肉の赤身にどれだけサシ（脂肪交雑）が入っているかを示す指標。6段階で判定され、No.6が最もサシが多い。</p>
<p>エスジーエス 粃米 S G S</p>	<p>ソフトグレインサイレージ（Soft Grain Silage）の略。飼料用米の粃米を乾燥させずに破碎し、水と乳酸菌を加え密封して発酵させたもの。</p>
<p>ティーディーエヌ T D N</p>	<p>家畜が消化できる養分の総量（Total Digestible Nutrients）。</p>
<p>ティーエムアール T M R</p>	<p>Total Mixed Ration の略。乾草やサイレージなどの粗飼料、穀物や大豆油かすなどの濃厚飼料、ミネラルなどを、給与する家畜の要求量を満たすように混合した飼料。</p>
<p>TMRセンター</p>	<p>TMR を製造し畜産農家に供給する組織。</p>

ダブルユーシーエス
W C S

ホールクロップサイレージ (Whole Crop Silage) の略。出穂後、実が完熟する前に地上部(実と茎葉)を一体的に収穫し、乳酸発酵させた飼料。